和歌山県「高野・熊野」文化・地域振興総合特区[指定:平成23年12月、認定:平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii)の平均値

(5.0+4.0)/2=4.5

4.5

i)取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	世界遺産関連地域における観光客総数(延べ人数)	140%	5
2	世界遺産関連地域における外国人宿泊客総数(延べ人数)	114%	5
3	世界遺産を管理する市町や所有者が実施する維持管理事業及び保存修 理事業に対する年間補助事業数	155%	5
4	地域通訳案内士登録総数	104%	5
5	地域通訳案内士の活動割合	_	_

評価指標毎の進捗の評価の平均値

 $(5 \times 4 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 4 = 5.0$

5.0

- ・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。 (例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、5×0.2+4×0.1+3×0.7=3.5で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。
- 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii)取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

П	支援措置の活用と地	!域独自の取組の状況に関する評価
	:) ::) :::) . ::) . ::	(40 00 07) (0-00

i)、ii)、iii)の平均値

(4.3+3.3+3.7) / 3 = 3.8

3.8

i)規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.3

ii)財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii)地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.7

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.0

- ・先手先手と新たな手を打ってきた成果が出ており、行政、観光事業者が連携してうまく機能している。
- ・地域通訳案内士の育成・登録は順調に進んでいるものと大いに評価できるが、就業している割合が25%に留まっているという現状から、その活動は十分とは言えない。活動割合のほかにも、何人くらい外国人を案内したのかを把握する必要がある。活動促進のために「旅行会社等と通訳案内士とのビジネスマッチングを行う」という施策は適切である。
- ・廉価なガイド単価が地域通訳案内士の就業割合が低い理由として考えられるため、国際的にも評価されている、精神世界に訴える魅力を神髄とする本特区ならではの「高付加価値・高単価」のツアーの企画を主体的に提案することが求められる。
- ・観光客総数を1260万人にするという特区の目標を地域通訳案内士など特区事業だけで達成することは困難であり、因果関係の説明が必要である。
- ・持続的な観光を今後維持していくためにも、世界遺産の保全、活用とのバランスが重要である。世界遺産地域においては、観光客数の増加の影響を適切に把握し、地域の調和が損なわれないように留意する必要があるのではないか。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.0

総合評価

I、Ⅱ及びⅢを1:1:2の比率で計算(4.5+3.8+4.0×2)/4=4.1

4.1

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5~1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。